横浜市立川上北小学校　　平成２９年度　学力向上アクションプラン

1　中期学校経営方針

（1）学校経営中期取組目標

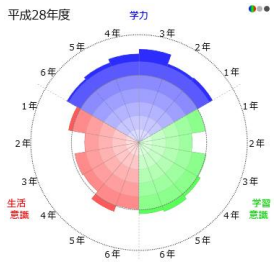
学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
○チーム川北として、子ども自身が成長を実感できるよう支えながら、大人も共に成長できる学校づくりを目指します。 ・子どもたち一人ひとりが、安心して豊かな学校生活を送れるよう、「自尊感情」と「自己効力感」を大切にした豊かな心の育成に努めます。 ・子どもの学力及び体力の向上を図るために、カリキュラムの運営･改善により、子どもの「学び」の質の向上に努めます。 ・教職員の専門職としての力量を高め、進んで自己の能力開発に取り組むと共に、組織的な教育実践を継続していきます。 ・子どもは「未来の宝」「地域の宝」であることの認識のもと、全職員が学校運営に主体的にかかわり、保護者や「まち」と連携、協力して「学びの共同体」としての学校づくりを目指します。

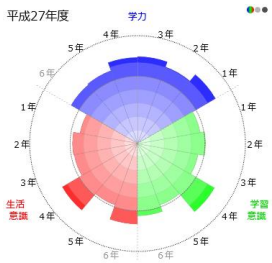
（2）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 (学習指導)		問題解決的な学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力などの能力の育成と学習意欲の向上に努める。	①「しっかり教え、しっかり引き出す指導」の充実を目指した日々の授業改善に努め、基礎・基本の力の定着を図る。 ②少人数指導による個に応じたきめ細やかな指導を実施したり、学年協業による授業形態を工夫したりして、指導の場や指導方法の工夫改善をすすめる。
担当	教務部		

2　横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

（1）学力の概要と要因の分析





本校の児童の学力は全体的に高く、全ての学年で市の平均を上回っている。学力の習得では一定の成果を上げている一方で、生活意識、学習意識については昨年度より低下傾向が見られ、３つの学年は市の平均を下回っている。「学習が生活に役立つか」の設問に対する回答で低めの学年が多く、学習したことやついた力を子ども自身が実感できる授業づくりを求められている。

（2）教科学習の状況

○ 国語科：全ての観点で市の平均を上回っている。特に、「読む」「話す・聞く」が大きく上回っている。
○ 算数科：全ての観点で市の平均を上回っている。
○ 社会科：全ての観点で市の平均を上回っている。
○ 理　科：全ての観点で市の平均を上回っている。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成２６年度から２８年度過去３年間の経年変化を見ると、学力については変わらず高い水準を維持している。知識の習得だけではなく、その力を活用する力も伸ばしている児童が多い。一方で、学習意識や生活意識の面では昨年度より低下している学年が多い。学習したことを他の教科や実際の生活の中で生かすことで、より学びが深まったり、新たな発見につながったりといった経験を通して、学ぶことの楽しさや、学んでいる自分自身のよさなどに気づかせていくことが大切である。「自分にはよいところがある」と回答している児童が高学年に多い。委員会活動や学校行事等を通して、「自分たちが学校をつくっている」という意識が自己肯定感の高まりにつながっていると考えられる。

３　平成２９年度　学年・教科等としての具体的取組

１学年

○担任とできるだけ対話をする場面を設けるようにし、自分の考えを安心して楽しく話すことができるように支援する。
○担任や友達の話をしっかり聞き取ることの大切さを実感できる場面を国語科の授業や生活の中で設け、聞く意欲と力を高める。
○分からないことや詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表現や態度、言葉で表したりしながら対話できるように指導する。
○自分の具体的な経験と結び付けて、感想や考えがもてるように指導する。
○学習したことが身についている、と実感できるような場面設定や声かけをしていく。

２学年

○国語科では、生活などで体験したことを通して自分の身の回りについて感想や考えをもつことができるよう、報告する文章や説明する文章を書く表現運動を大切にする。
○算数では、実際に具体物や半具体物を操作しながら１０のまとまりを意識して数を数えたり、計算したりすることを通して、力を身に付けさせていく。また、学習したことを、楽しみながら生活に生かせるよう、取り組んでいく。
○学校生活全般において、相手の気持ちを考えながら、約束やきまりを守れるように指導していく。

３学年

○国語科等で、それぞれの考えを比較したり、根拠をもとに説明したりする力を育成できるよう指導する。
○学習の中で話し合いの場を設け、友達の考えのよさに気付いたり、自分の考えをさらに深めたりできるようにする。
○自分や友達のよさを認め、様々なことに前向きに取り組めるように支援する。
○学校生活において、約束やきまりを守り、互いの気持ちを考えながら行動できるよう指導していく。

４学年

○　国語科等で説明する力、報告する文章を書く力などの能力や目的や相手に応じ、内容の中心を明確にしながら、自分を表現する力を育成できるよう指導を工夫する。
○　算数科等では、具体的な場面を提示し、日常生活と関連付けて課題解決ができるように指導する。
○　学校生活全般において、今までの経験をもとに自分の考えに自信をもち、相手に伝えられるように支援する。

５学年

○国語科等で、目的や必要に応じて文章を読んだり、書いたりできるような表現活動を大切にするとともに、書いたものを読み合い、意見を述べ合う場面を位置付ける。
○理科等では、主体的な学習活動を通して、意欲的に学習に取り組むことができるようにし、実験や観察に関する正しい技能を身に付けられるよう指導する。
○学校生活の中で、話したり聞いたりする活動を通して、友達の気持ちを考えながらかかわることが出来るように支援をしていく。

６学年

○理科や社会科、総合では、ふだんの生活や社会と関連づけて考えたり、多面的に考えたりする学習とその振り返りを計画的に位置付ける。
○各教科・領域等において、話合いをする場面を位置付け、表現活動の大切さや他の人と協働し成し遂げることのよさを感じ取れるようにする。
○子どもの思いや自主性を尊重した行事への取り組みを通して、自己肯定感を育てる。
○話合い活動や集会などを中心に、各教科や生活全体でコミュニケーション力を高める。

個別支援学級

○個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づき、話し言葉や書き言葉、対人関係づくり等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設ける。
○交流級の担任と連携を密にとりながら、各学年の取組を参考にし、各発達段階に応じた指導を行う。
○視覚的にとらえやすい内容提示や、活動の見通しがもてるような予定の提示など、子どもに分かりやすい情報発信に努める。